

## 青年の力で文化育む

### 登米市青年文化祭を開催

「第21回登米市青年文化祭」(登米市青年団連絡協議会主催)が2月8日、南方農村環境改善センターで開かれ、多くの来場者でにぎわいました。

文化祭は、郷土芸能やダンスなどのステージ発表のほか、音楽を聴きながら絵を描くワークショップや、プラモデル・紙飛行機作りなどの体験ブース、さまざまな作品の展示発表など、多彩な内容で催され、来場者を楽しませました。ボランティアとして参加したジュニアリーダーの千葉柳央佳さん(16)＝中田町野本＝は「これまで知らなかった伝統芸能もあり、今回初めて触れて『自分もやってみたい』と感じました」と話しました。



地域で伝統芸能や文化活動に励む若い世代が、活動の成果を発表。ステージ発表では会場が一体となって盛り上がりました。

## 800年以上続く伝統

### 防火願う米川の水かぶり

「米川の水かぶり」(同保存会主催)が2月1日、東和町米川地内で開かれ、大勢の人が訪れました。

この行事は、毎年2月の初午の日に開催している火伏せの行事で、ユネスコ無形文化遺産と国指定重要無形民俗文化財に登録されています。わら装束を身に着け、顔にすすを塗った男衆28人が、火の神の化身として、家の屋根にめがけて勢いよく水をかけて回り、火伏せを祈願しました。及川太陽さん＝仙台市＝は「実家が近くなので、いつも家族で楽しみに来ています。わらをいっぱい取ったので、屋根に上げて火災除けのお守りにします」と話していました。



「ホーホー」と声を発しながら水をかけて回る男衆。市内外から沿道を埋め尽くすほどの人が訪れ、奇祭を間近で楽しみました。

## 人形劇で防災伝える

### 消防団女性分団防災教室

市消防団女性分団による「防火・防災教室」が2月18日、南方幼稚園で開かれ園児約20人が参加しました。

防災教室は、子どもの防災の知識や意識を育むことを目的に開催。女性団員が、火遊びの怖さを伝える紙芝居や人形劇などを披露して、マッチやライターを使って火遊びをしないことや火事が起きたときは、煙を吸わないように、低い姿勢で移動することなどを呼びかけました。年長の千葉鈴蘭さんは「人形劇とクイズが楽しかったです。女性団員の皆さんから火事が起きたときの逃げ方を教えてもらったので、おうちに帰ってみんなに話します」と笑顔を見せました。



人形劇では、火遊びは絶対にしてはいけないことなどを伝え、園児たちは真剣な表情で話を聞いていました。

## 空き家問題を考える

### セミナーと相談会を開催

「登米市空き家セミナー・空き家相談会」が2月7日、迫公民館で開かれ、市民23人が参加しました。

セミナーは、全国的な問題になっている空き家の発生を抑えることと、適正な管理につなげることを目的に開催。全国古民家再生協会の桂田彰子さんが講演し、参加者は空き家の問題点や対策方法についての知識を深めました。東日本大震災を機に市内に移住したという参加者は「以前住んでいた家が空き家になっているので参加しました。子どもも離れて暮らしているので解体を考えていますが、これからいろいろ話を聞いて検討していきたいです」と話していました。



セミナー後の個別相談会の参加者は、リフォームなどの利活用や処分の方法などについて相談していました。

## 正しい所作で美しく

### 南方中卒業記念礼法講座

「卒業記念礼法講座」が2月18日、南方農村環境改善センターで開かれ、南方中学校の3年生約70人が参加しました。

礼法講座は、あいさつなどの作法を身に付けるため、3年生の卒業記念講座として毎年開催。新邦楽舞踊若泉流貴智栄会会主で師範の鈴木智栄子さん＝南方町新高石＝を講師に迎え、生徒たちは基本の礼法や美しく見えるあいさつのこつなどを学びました。星瑞騎さんは「さまざまな所作を学び、改めて日本の文化に触れた気がしました。卒業式では今日学んだことを生かして、お辞儀の角度を意識します」と話しました。



生徒たちは、あいさつの基本となるお辞儀の角度や手の位置などを、お互いに見比べながら楽しく学びました。

## ほっこりアート堪能

### ふるさと記念館で企画展

第26回自主企画展「徳治昭童画展 ほっこりワールド in石ノ森章太郎ふるさと記念館」が2月7日から3月8日まで、同館企画展示室で開かれました。

企画展では、「ほっこり」・「かわいい」童画で見る人の笑顔を引き出す、イラストレーター兼童画家の徳治昭さんが描いたオリジナル作品のほか、「サイボーグ009」や「ウルトラ怪獣」など、日本の名作とのコラボ作品を展示。ワークショップに参加した千葉日葵さん(9)＝中田町新町＝は「絵を描くのが好きで、友達と参加しました。指で描くのが新鮮で楽しかったです。かわいく描けたので家に飾ります」と話していました。



2月8日には徳さん本人を招いたワークショップを開催。筆を使わず、指で絵の具を広げ、個性あふれる作品が完成しました。